

ひまわり

札幌市立幌北小学校ひまわり分校
札幌市立北辰中学校ひまわり分校
学校だより

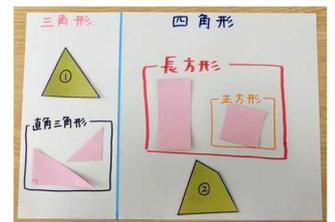
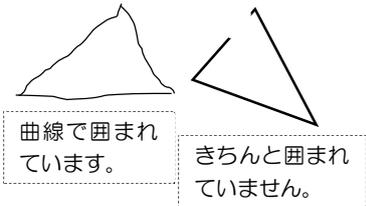


令和6年11月18日

第30号

図形を学ぼう！

図形の学習です。小学校の低学年では、初めて「図形」という概念を学習します。子どもたちは日常の生活の中で、様々な図形を見慣れています。最近では、ゲームの世界の中でも実写版の映像が多いことから、立体的な図形も見慣れています。そこで「三角形、四角形って、何？」と問われたとき、子どもたちの頭の中にはいろんな三角形や四角形が出てくるのです。右の図のような形は、算数では「三角形」とはいいません。それは「曲線で囲まれていること。」と「隙間があき、きちんと直線で囲まれていないこと。」が三角形ではない理由です。最初、子どもたちは「え、なんで？」となりますが、ここで学ぶ算数の三角形は、「直線で囲まれた図形」です。四角形も同様に直線で囲まれた図形のことをいいます。図形を構成する要素に着目し、各図形の特徴を学んでいきます。



三角形の種類には、正三角形や直角三角形があることを学び四角形にも正方形や長方形があることを学びます。それぞれに特徴がある中で「直角」という概念も知ります。「直角=90度」ということが分かり、図形の表示する直角のマークも覚えます。

この図形の学びが、高学年になると面積や体積を求める学習へ発展していきます。

図形を分け、その特徴ごとに整理します。簡単そうですが、特徴を自ら話することができるのが大切です。

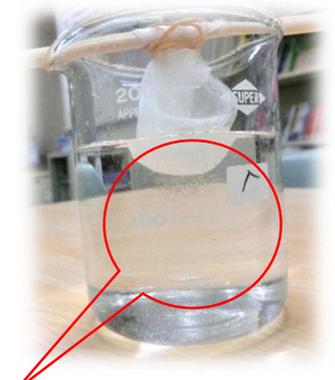
身近に起きることを学ぼう！（理科の実験より）

小学校高学年の理科の学習で「物のとけ方」という学習があります。このおたよりを読んでいただいている大人の方々は、水に「とける」とはどのようなことか説明できますか。日常生活の中にたくさん見られる現象です。水に「とける」とは、「消える」と違います。教科書によって、多少、表記の仕方が違いますが「物が水にとけると、つぶが見えなくなり、液が透き通って見えるようになります。しかし、つぶが見えなくなってもとけた物は、なくなったわけではありません。」とか「水の中で、物のつぶが目に見えないほど小さなつぶになり、水の中を均一に広がる。」等の説明になるのです。



物がとけていくときのイメージ図です。粒が小さくなり、水中に均一に広がります。

物は、水の中で小さくなって存在し続けているのです。実際に、水に物をとかせたときに重さを計ると、水は透明であっても、とかせた物の分だけ重さが増えていきます。また実験として、物をとかせた水を蒸発させる実験もあり、実際には、とけた物が再び姿を現します。みなさんは、透明な砂糖水や塩水をなめたことがありますか。透明なのに（水と変わらない）甘い味やしょっぱいと感じたと思います。それは、砂糖や塩が、目に見えないほど小さな粒になって水の中に存在している証拠なのです。



子どもたちは、実験を通じて自身の周りで起きている現象の観察力・課題解決力を高め、興味・関心を深めることで更なる探求心が芽生えます。やはり実際に行う理科の実験は、楽しいですね！子どもたちも一生懸命に取り組んでいます。

物がとけ、下に流れ落ちている様子が見えますか？モヤモヤしている部分です。皆さんも水を入れたコップに砂糖を多めに入れ、沈んだままにしておきます。しばらくそのままにした後、水がこぼれない程度にコップをゆらすと、とけた砂糖が沈んだ砂糖の周りにモヤモヤ〜と姿を現し、とけた砂糖を見ることができます！お時間のある方は、チャレンジしてみてください。

お知らせ

◎19日（火）は、ALT（ハンター先生）が来校します。